

## 平成 25 年 10 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

県内の「業界の景況（前年同月との比較）」は、悪いと感じている人が、先月（9月）よりも減少している。

先月の一般機器、卸売業、建設業に加え、輸送機器、運輸業の一部で、前年よりも受注・操業度とも上向き傾向であるという報告があるが、同業種の中でも差があり、価格・納期とも依然厳しく、景気の回復を実感しないという業種も依然としてある。

また、10月は「2度の週末台風による出控えの影響」のほか、「円安による原材料と燃料費等の高止まりの影響」により、収益を圧迫しているとの報告が多い。

消費税増税については、小売業やサービス業では売上減少や消費税転嫁等の先行きに対する不安等の声がある。運輸業では、駆け込み需要を見込んで商品・資材の備蓄が進んでいるという報告と、荷動きが相変わらず悪いという報告が混在している。

### 山口県の主要指標 DI 値（平成 25 年 10 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：11.3% 悪化：26.3% DI 値：▲15.0% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、増加：20.0% 減少：28.8% DI 値：▲8.8% ポイント

収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）


前年同月比は、好転：11.3% 悪化：31.3% DI 値：▲20.0% ポイント

### 山口県の業種別 DI 値(業界の景況)(平成 25 年 10 月末現在)

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲29 以上	 ▲30 以下
--	--	---	--	---

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲57.1	▲25.0	0.0	▲50.0	16.6	▲11.1	▲50.0	▲21.2
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	全非製造業
0.0	▲22.2	▲25.0	▲33.3	40.0	▲28.6	▲10.6
						

全体
▲15.0


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	もち米が、「夏の高温・9月の長雨・ウンカの発生」で不作であったが、組合契約分は確保できた。JAによると、25年度は全国的に不作であったが、24年度分の在庫が全国にあり、価格高騰は無いであろうとのこと。	パン・菓子製造業
	10月は2度に渡る週末台風接近により客足が鈍り▲10%と大きく前年を割り込んだ。天候に恵まれた3連休は昨年対比+5%となり、業績はかなり天候に左右される。4月～10月の累計も▲4%と厳しい推移である。日産自動車から電気自動車LEAF1台と充電ステーションの寄贈を受けることになった。	水産食料品製造業 萩市
	副原料や資材などの値上げの実行が行われコスト面でとても逼迫している。一部製品の値上げを検討するが、販売面で不安。消費増税の動向が読めない。	水産食料品製造業 下関市
	円安のため、エネルギー、原材料価格が少しづつ上昇しているが、製品価格への転嫁は出来ていない。	
	地球温暖化に伴い、作物も高温障害や、害虫の異常発生による被害など、年々激しさを増しているため、抜本的な対策が求められる。	精穀・製粉業
繊維工業	傘下の企業一社が経営が困難になり操業を中止した。外国人技能実習生は、組合傘下企業に移して難を避けることができたが、業界は依然厳しい状況には変わらない。この先改善が見込めないため、同オーナーのもう一社の企業も同様になりかねない。衣料品の国内生産は、今後も増えることはないため国内工場は縮小と閉鎖が続くと予想をしている。	下着類製造業
	景気は回復しているとの報道だが、店頭の変化は見られない。	外衣・シャツ製造業 山口市
	10月は仕事が少ない中で、なんとか仕事量を確保できたような状態であったが、月末からは仕事が入り始め、11月分は既に必要量の仕事の確保が出来ている。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	木材価格に変動はない。新設住宅着工数は、対前年より微増となっている。今後に期待している。	製材業・木製品製造業 山口市
	原木の値上がりがあるが、製品価格に転嫁できない状況。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	昨年に比べると業績はかなり好転していると思われる。ただ紙代の値上げ、光熱費等も上昇しており、	印刷 下関市

	利益を圧迫している。今後は、金利の上昇と、更なる紙の値上げが非常に懸念される。	
	相変わらず競争見積もり等、低価格競争に歯止めはかからず、底値の下をいかいくぐる落札ばかりである。	印刷 山口市
窯業・ 土石製品	対前年同月比は、骨材128%、路盤材128%、再生材132%、全体では129%の出荷量となっている。	砕石製造業
	出荷量は、前月比118%、前年同月比は115%といずれも増加。この結果、上半期は対前年度比101%にまで回復。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。セメントなど原材料値上げの動きがあるが、生コン価格は総じて安定している。一方で、山間部(災害復旧、えん堤)工事で必要となる小型生コン車が不足気味。	生コンクリート製造業
	消費税のUPの駆込み需要か、仕事量が増大。	石工品製造業
一般機器	受注は回復の傾向にあるものの、取引先でバラツキが有り、格差が拡大している。また、消費税増税実施後の落ち込みが懸念され、今後の経済対策が待たれる。	一般機械器具製造業 周南市
	前月の状況から大きな変化はないが、取引先企業に若干の受注増加傾向が見受けられ、外国人技能実習生の受け入れについての問い合わせが来ている。	一般機械器具製造業 宇部市
	前月通りの推移。  10月金型の設備操業度は9月度に比べやや下降気味であった。相変わらず見積り案件は多いが、価格・納期が厳しく受注はやや低迷した状態で、来期に向けて何とか受注促進をしなければならない。来期についても今年度同様に厳しい状況が続くと思われる。成形製品のうち民生部品関係は若干増加傾向で、新規立ち上げの案件はあるもののしばらくは厳しい状況が続きそうで、売上に貢献してくるのは、まだまだ先になりそう。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	輸送部門に明るさは見られず低調に推移。回復には時間がかかるように思う。精密加工、プラント部門は世の中の景気動向と同じく上向きで低迷期を脱した。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	表立った変化は見られませんが、消費税の影響か印紙の販売が増加している。	各種商品小売業柳井市
	少しずつ、良い兆しが見えてきた様子。太陽光発電等の需要が増えつつある。マツダ関連の業種では、設備操業度が好転して来た様に聞いている。	各種商品小売業 防府市

	例年になく猛暑日が多くあり、飲料水関係の売上が増。景気は緩やかに回復しているようだが、実感はない。	各種商品小売業 山口市
	ガソリン価格の高騰に苦慮している。	各種商品小売業 下関市
	この夏の猛暑による海水温の上昇で魚の入荷が大幅に減少。深刻な状況が続いた。	生鮮・魚介卸売業 下関市
小売業	10月21日から冬季の健康食品コンテストがスタート。23期目標達成中であるので、今期も達成を目指している。11月21日に東京で開催の「全国化粧品小売全国大会」には山口県から6名の参加を予定している。	化粧品小売業
	10月は、回復基調が続いているが一服の状態である。地区内小規模事業者は、景気回復の恩恵なく足踏みの状態が続いている。政府の景気対策と賃金の上昇に期待をしている。小売業は、9月と同じく地域小売店全般的に大型店及びインターネット通販の攻勢により苦戦していることに変わりはない。また、高齢化による廃業が続いている。売上減少の不安や消費税を売価に転嫁出来るのか等、来年4月よりの消費税増税に対する不安の声を聞く様になった。サービス業は、飲食店関係は堅調に推移している。土木・建築等には仕事は出ているが、資格作業員不足で困っている会社が多い。	各種商品小売業 岩国市
	経済産業省「平成24年度中心市街地魅力発掘・創造支援事業」の認定を受け、各商店街の、将来展望を話し合う場として、それぞれの商店街ごとにワークショップを開催している。昨年のやまぐち産業振興財団助成により実施した「交通に着目した来街者向けサービス事業構築」に引き続き周南市、東京大学、まちあい徳山の協力を受け、年度末を期限として進行している。	各種商品小売業 周南市
	9月の厳しい残暑の反動もあり、10月は久しぶりに前年比プラスとなったが、9月の減少分全てを補うまでには至っていない。	各種商品小売業 山口市
	今月も売上、客数とも前年割れという厳しい状況が続いている。	各種商品小売業 長門市
商店街	先月よりは売上が若干上昇しましたが、台風も来て来街者数が思ったほど伸びなかった。	山口市
	10月11日～14日「萩焼まつり」、10月19日～20日「ハロウィン—in たまち」のイベント開催の来街者数は、昨年と同程度であった。イベントの内容については次回に向けて再考が必要。	萩市

サービス業	10月の秋の行楽シーズンは台風の影響で、消費者は旅行やおしゃれを控えており、美容室の景況も変わらない。	美容業
	第65回全国理容競技大会を山口県で開催したことで、理容業界のアピールが出来た。	理容業
	県内の景気は、全体としては緩やかに回復しているとの事だが、自動車整備業界は小規模零細企業が多い事から、景況感は依然厳しい。整備業界は、他の業種に比較し車検という法定需要が有る為景気の影響が少ないと言われているが、車検以外の売上は景気に大きく左右される為消費税増税の影響が心配される。	自動車整備業
	夏場のエアコン需要も減り、ディーラー決算も終了し、売上が減少してきた。なかなか、世の中の好調さが実感できない。	
	新しいビジネスモデル構築を模索している。	情報サービス業
	消費税増税による駆け込み需要もほとんどなく、次年度予算取りの見積もりでも低価格を求められ先行きは暗雲ばかりに思える。	屋外広告業
	10月に期待していたが、9月同様に苦しい運営であった。新しい施設「はい！からっと横丁」も平日は閑散としている時があった。景気は極めて好調の雰囲気は、まったく感じない月であった。台風の影響で延期やキャンセルがあり、宴会も落ち込んでいた。かろうじてお土産は、顕著に動いていた。山陰は、出雲大社の効果で、前年対比220%以上という声も聞くが、下関地区の集客は前年を割っており、非常に悪循環を感じた10月であった。	旅館業 下関市
	10月の入浴者数は前年同月期8.6%の増加。売上高、収益は若干の増加。営業利益、経常利益は確保されたものの、通期の赤字を解消はできない。今月の前半の来客は低調であったが、中旬から連休、イベント等により増加した。災害等の警戒感が影響し、集客は天候に左右される傾向にある。	旅館業 長門市
売上高は減少気味である。長引く景気低迷によるボディーブローが効いてきている。ここを生き抜いたものが今後の利益を享受することとなると思われる。山口県内でイベントは大小あるものの、売上に長く寄与する目立ったものはない。	飲食業	
建設業	中電への工事申請は9月237件（当市部分198件）、前年同月218件（同179件）。太陽光発電への申請45件、オール電化申請60件（前年は太陽光28件、オール電化26件）。LED街路灯への	電気工事業

	切替・新設申請は55件（前年52件）であった。	
	地域によるが仕事量がある地域は若干好転している感あり。	左官業
	公共工事は、引き続き増加傾向にあるが、入札額は依然として低入札が続いている。民間の一戸建て住宅の着工は増加傾向にあるが、アパート・マンション等の着工が一段落の傾向になっている。	土木工事業 柳井市
	公共工事の前払金について、下松市は300万円以上の工事には平成25年4月より、支払限度額がようやく5、000万円から1億円となり、業務委託工事は対象外であったのが対象となった。前払率は40%で、他市と変わらないが、支払い限度額が限度なしの市も多い中で、下松市は1億円なので遅れていると思う。	土木工事業 下松市
	全体的に公共工事はかなり発注されていますが、当地区組合員には指名が無い事が多いので、指をくわえてみている状況。	土木工事業 周南市
	10月の受注高は、対前年同月比79%。今年度の累計は、対前年比149%。	土木工事業 萩市
	昨年と比べると、公共工事は充分にあるが、仕事をとって実施する人員がいない状況が続いている。10月より塩ビ管が10%の値上がりの予定であったが、実際はまだあがっていない。	管工事業
運輸業	消費税増税の決定により商品・資材の備蓄が進んでいる。輸送荷物はあるのだが、当月は特殊車も含め輸送車両が不足した。岩国基地への物資搬入が優先されているのもその一因の様。輸出は横ばい。結果として売上高は、前年同月比約19%弱の減少。油価格も値の上下が目まぐるしく、中小運送業者の経営を圧迫している。	一般貨物自動車運送業 下松市
	輸送稼働は今月も前年同月比で10%程度伸びたが、昨年が悪すぎたので、比較にならない。今後は、関連する大手企業が生産拠点を海外に移転する等、不安材料が多い。燃料価格については高止まり状況にあり、前年比9%程度の上昇。	一般貨物自動車運送業 防府市
	相変わらず荷動きが悪く、軽油価格が右肩上がりに高騰し苦しい状態が続いている。小規模な仕事だが、倉庫業の方は安定した依頼がある。年末の繁忙期に期待する。	一般貨物自動車運送業 宇部市
	先月はETC手数料が0円であったが、今月は若干の増加。燃料は又値上がり、店頭価格10132円、組合購入価格10120.5円である。景気の上向き	一般貨物自動車運送業 下関市

	に期待する状況。	
	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比マイナス7.1%(平成25年9月1日～10月20日分)で、また減少幅が大きくなり、昨年6月以降の減少は止まっていない。9月1日～30日分は△7.5%、10月1日～20日分は△6.4%となった。当組合の取扱いは、光市、下松市、周南市、防府市の地域です。防府市は前年より若干増加、周南、下松市は若干減少、光市の地区が大幅に減少している。日中の病院通い等、現金利用客の減少はそれほどではないようですが、コンビナートの大企業(鉄鋼化学等の輸入産業)、夜間の飲食店関係が激減しており、タクシー事業者も、歩合給で働く乗務員も、非常に厳しい状況におかれている。燃料のLPGについては、CP(通告価格)と為替に連動して変動。前月分よりCPが上昇し円安に進んだため、10月のタクシー会社の購入単価は先月に続き+2%上昇、前年10月分に比べ+7%となりました。公定料金で容易に収入の増加が見込めない業界において、燃料価格の上昇は、組合員であるタクシー会社の経営を苦しめている。タクシー事業が特に厳しいのかも知れないが、大都市では景気が上昇しているとの事だが、地方の個人消費は一向に回復しているように思われない。今後消費税の増税によって、より厳しい景況になる事が大いに懸念される。</p>	一般旅客自動車運送業
	<p>経済上向きの声が聞かれる中、数字としては未だほとんど表れていないが、当港においても若干の期待感が持たれるようになった。</p>	港湾運送業